

まずはジャークチキンを食べるべし!

① JERK MAN (ジャークマン)

大阪市東成区中本1-10-23 ☎06-6224-3173
11:30~13:30 / 18:00~22:00 月曜・不定休

店先のパーベキュー用のドラム缶がひとまわしを引く。壁には現代アートの狩集広洋(かりしゅうひろみ)のダイナミックな絵が描かれ、レグエが流れる店内ではジャマイカ料理が味わえる。「ジャマイカ料理?」と言われてもピンとこないが、名物は「ジャークチキン」(ランチセット980円・写真)。スパイスやハーブを混ぜ合わせてたソースに鶏を漬け込み、ドラム缶で蒸し焼きにしたもの。何種類ものスパイスが何とも言いえない旨味となり、癖になる一品だ。日曜の夜はDJライブなども開催。



Facebookもチェック

市民共済のよんど担当者が、マップ片手に歩いてみました。詳細はフェイスブックにて!



「大阪名所 じっくりMAP」

〈第18回〉

ものづくりの東成区とラグビーに沸く東大阪市を探访



案内人 平尾 剛



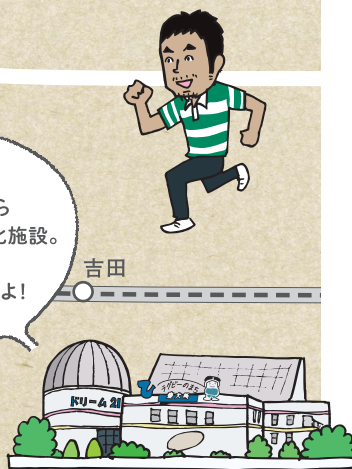
グリコおまけデザイナーの博物館

⑧ 宮本順三記念館 豆玩舎 ZUNZO (おまけやズンゾ)

東大阪市下小阪5-1-21・3F ☎06-6725-2545 10:00~17:00
月曜休(臨時休業日あり・要確認) 入館料:大人500円

グリコのおまけデザイナーで洋画家のZUNZOこと宮本順三。1935年にグリコに入社し、「おまけ係」となる。戦後は独立してセルロイド・プラスチック製品を手掛けるが、半世紀にわたるグリコをはじめ多くのお菓子のおもちゃの考察・製造を行い、日本中の子どもたちに夢を届けた。記念館では宮本の作品(絵画・豆おもちゃ)や生収集した日本の郷土玩具・世界の人形玩具・仮面など民族文化資料を展示。5月からは「ZUNZOの愛した東大阪-ラグビーと世界のボトル-」を開催中。

スポーツ・科学・宇宙について楽しみながら学ぶことのできる文化施設。館内にはプラネタリウムもあるよ!



見た目も味も◎!

ラグビーボール型のカレーパン



⑨ パン工房鳴門屋 八戸ノ里店

東大阪市小阪3-2-24 ☎06-6782-0732 7:00~21:00 無休

「ラグビー、ものづくりに続く名物を…」と作られた「東大阪カレーパン会」。その会を代表するのが、2012年に日本全国ご当地パン祭りで準優勝に輝いた鳴門屋の「東大阪ラグカレー」(1個173円)。鳴門屋は1934年に東成区で創業し、和歌山の有田みかんや淡路島産の玉ねぎを使うなど、全国の農家と協力したこだわり食材のパンが好評だ。東大阪ラグカレーは、表面がカリカリで中はじっくり蒸込んだ牛スジのカレーがたっぷり味わえる。



聖地花園を見守る神様、参拝してから観戦しよう!

⑩ 吉田春日神社

東大阪市吉田2-6-22 ☎072-963-2256 拝観自由

奈良春日神社の四柱神を勧請し奉ったことが始まり。1872年に枚岡神社に合祀されて社殿だけが残されたが、村民の強い願いにより1880年に復祀する。本殿は貴重な建造物として2015年に府の有形文化財に指定。吉田春日神社は、全国高校ラグビー大会シーズン中、選手の無事故、安全と必勝を祈願したジャンボ絵馬や、巨大木製ラグビーボールが地元有志により奉納されており、ラグビー神社として全国に知られている。

大規模リニューアルを終え、世界大会開催を待つのみ

⑪ 東大阪市花園ラグビー場

東大阪市松原南1丁目1-1 ☎072-961-3668(受付時間9:00~17:00)

1929年に日本最初のラグビー専用グラウンドとして、スポーツの宮さまとして親しまれた故秩父宮さまのお声がかかり誕生した。各カテゴリーで盛んに試合が行われているが、何と云っても毎年、年末年始に開催される全国高校ラグビーフットボール大会が有名だ。南スタンド1階には、世界や日本のラグビーの歴史をわかりやすく紹介する「ラグビーミュージアム」がある。9/20に開幕するラグビーの世界大会に向けた改修工事を終えて、新しく生まれ変わった。花園ラグビー場では4試合が行われる。



元日本代表、平尾剛の「花園青春記」

ラグビー選手にとって花園ラグビー場は特別な場所だ。とくに高校生なら誰もが一度は憧れを抱く。毎年ここで行われる全国高校ラグビー大会、通称「花園」への出場を、全国の高校ラグビーマンは切望してやまない。くるぶしまで隠れるほど深く青々としたあの芝の上を駆け回りたく、泥と汗にまみれて練習に励む。かつての私もその1人だった。雨に打たれながら、ときに血を流しつつも楕円球を追ったあの日は、紛れもなく私の青春だった。忘れられない思い出がある。花園出場をかけた臨んだ大阪予選の準決勝で、私が所属した同志社香里は啓光学園に破れた。その年の春季大会を制した実績から下馬評では同志社有利と囁かれていた。だが全国大会優勝経験のある啓光に完敗を喫した。豊富な経験に裏打ちされた試合巧者ぶりを存分に発揮した啓光は、とにかく強かった。ノーサイドのホイッスルを待たずに涙がこぼれたのは、後にも先にもこの試合だけだ。高校入学時から憧

続けた花園出場という目標が果たせずに終わる、その切なさには耐えきれなくなったのである。こうして書いていくと当時の心境がよみがえり、胸が引き乱される。松任谷由実の名曲「ノーサイド」を知っているだろうか。1984年、第63回大会決勝の天理対大分舞鶴の試合がモチーフになったこの曲を、私は今でも心おだやかに聴くことができない。ゆるやかな冬の日の黄昏に、彼はもう二度と かくことのない風 深く吸った」というフレーズに、あの日の涙が思い出される。「歓声よりも長く 興奮よりも速く 走ろうとしていたあなたを少しでもわかりたいから」、高校を卒業してからも続けたラグビー人生そのものが総括されて筆舌に尽くし難い感情が湧いてくる。どのスタジアムにも、そこで汗を流した者、またそれを見守った者たちの記憶が集積している。いつまでも心に残り続ける情景が「花園」にはある。

※料金はすべて税込となります。

職人の舌と昔ながらの直火釜でつくる匠の味

② 株式会社山本

大阪市東成区東中本1-14-4 ☎06-6971-4197
9:00~18:00 日曜・祝日休



東成区の「ものづくり」と聞くと鉄や金属の町工場のイメージがあるが、地元の暮らしを支える「匠の味」もそのひとつ。創業の山本は家庭用からお使い物まで各種昆布巻や佃煮を扱う老舗。一番人気は北海道産の鶴の子大豆と昆布を一緒に炊いた「昆布豆」(小サイズ464円)で、お年寄りから子どもまでファンは多い。同じく農林水産大臣賞受賞の「にしん昆布巻」(小サイズ788円)も看板商品だ。店の裏にある工場で、化学調味料は一切使わず、遠赤外線効果の高い直火釜で炊き上げている。

和風モダンなお雛様など斬新なデザインも

③ 芳精堂 (ほうせいどう)

大阪市東成区玉津2-16-14 ☎06-6971-2761

1832年、江戸時代から大阪の伝統工芸品「曲げ物」の技術を継承する。「曲げ物」とは、櫓(ひのき)や杉などの木材を熱湯で曲げて、一枚の板から作り上げる優美な円筒形の容器のこと。古くから庶民の日常生活用具として広く使われてきた。芳精堂では、もともと神事にかかせない丸三宝を作っていたが、神具以外にも結納品やお雛様の屏風や三宝(写真)などのお道具、お節句の兜飾りなどに曲げ物の技術が生かされている。全国の百貨店や小売店に卸しているが、一般のお客さんからのオーダーも可能。



東成区のキャラクターもかぶっている菅笠

④ 深江郷土資料館

大阪市東成区深江南3-16-14 ☎06-6977-5555
土曜・日曜・祝日の9:30~12:00と14:00~16:30のみ開館
入館無料 平日休

約二千年前、東成区の深江地区に自生する菅(すげ)を使って笠などを作ったのが始まりという伝統工芸「菅細工」。深江菅細工の菅笠は古くは万葉集にも詠まれており、江戸時代には「お伊勢参り」の必需品であった。現在でも20年に一度行われる伊勢神宮の式年遷宮の際は、深江から菅笠が献納されている。深江郷土資料館では、菅細工の歴史の紹介の他、人間国宝 角谷一圭氏の茶釜や菅細工以外の伝統工芸品も展示されている。



「行列が絶えない店」と言われるのも納得

⑤ なにわ最強醤油ラーメン 金久右衛門本店

大阪市東成区深江北3-2-8 ☎06-6975-8018
11:00~16:00 / 17:00~20:00 月曜休

木製の引き戸の横に「金久右衛門(きんぐえもん)」と表札がかかっているだけで、前を通ってもラーメン屋とは気が付かない地味な外観。しかし、ここが言わずと知れた大阪を代表するラーメンチェーン店、「金久右衛門」の本店なのだ。一番人気はオリジナルの醤油を使った「大阪ブラック」(720円)、黒い出汁に絡んだ太麺が食べ応えたっぷり、黒い醤油スープも美味なく飲み干せる。この味を求めて海外からのお客さんも多いとか。細麺が好みの方には「金醤油ラーメン」(670円)がおすすめ。



元祖風月の味を受け継ぐ、絶品お好み焼き

⑥ 布施風月

東大阪市長堂3-1-1-21 ☎06-7172-0486
11:30~22:00(21:00LO) 火曜休

東大阪では商工会議所が「東大阪お好み焼きグランプリ」を開催している「お好み焼きの街」。中でも、布施風月はこの街を代表するお好み焼き店。1950年に天満で創業し、後に暖簾分けをして、天満の「風月」、「鶴橋風月」、「風の街」、「布施風月」ができた。現在「鶴橋風月」はチェーン展開していて、「布施風月」は元祖風月の伝統の味を受け継いだ貴重なお店。名物の「風月玉」(1,220円)は牛肉、豚、イカ、海老とたっぷりのキャベツを少なめのキジで焼き上げる。焼きたての味を頬張る…至福の瞬間だ。



執筆にいそしんだ書齋もそのまま残されている

⑦ 司馬遼太郎記念館

東大阪市下小阪3-11-18 ☎06-6726-3860 10:00~17:00(入館受付は16:30まで) 月曜休(祝日の場合は翌日休) 9/1~10、12/28~1/4休
入館料:大人500円

『街道をゆく』『功名が辻』ほか、数多くの作品を世に送り1996年に急逝した作家・司馬遼太郎の記念館。約2600m²の敷地には、司馬氏の自宅と安藤忠雄氏設計の記念館が隣接して建っている。館内には、吹き抜けの高さ約11mの壁面に2万冊ほどの書籍が収納されている。展示スペースでは年2回の企画展や、150余席のホールでは常時映像を上映し講演会やコンサートなども開催。

